

労働組合の概観

1、最近の情勢（特に昭和七年中の主要事項）
2、中央の影響

先づ社民黨の分裂日本國家社會黨の樹立に因る本縣下労働組合に對する影響は、筑豊鐵山地方に於て鐵同盟系日本石炭坑夫組合長光吉悦心一派の國社轉向と、全國労働系西部鐵山労働組合及全國鐵山労働組合（單獨組合）舊社民支持の一節を以つて九州鐵夫組合の結成されたことと之が爲に筑豊地方に於ける組合戰線の三派對立に依る尖鋭化は見逃されない。

次に北九州工場地帯に於て、舊大衆黨縣聯より去りたる米村長太郎一派の組織したる刷新派労働組合並に反淺原健三一派に依つて左翼を標榜結成したる北九州金屬労働組合が

中心人物上田茂文吉等に依り北九州労働者會議に改組すると共に國社に轉向したることである。

然しながら右何れも既成労働組合に對する數字上の打撃は大いなるものではなかつた。

次に昭和五年四月結成以來無活動の狀態であつた労働組合九州協議會が、日本労働組合會議の組織する、や之に別數され夫れと同一主義の下に其の地方的延長として鐵同盟九聯、同志會、鐵聯、海員組合門司、戸畑、支部等に依りて九州地方労働組合會議が十月二十日結成されたのであつて其の將來は相當注目されてゐる。

b、日本製鐵労働組合聯合會内部の刷新運動

當初組合員一萬を擁すと稱せられた鐵聯は最近著しく不振に陥つてゐたところ、適々日本主義労働運動の主張に共鳴するところのあつた金副部長佐保實一派の刷新運動が捲頭